5がつ May

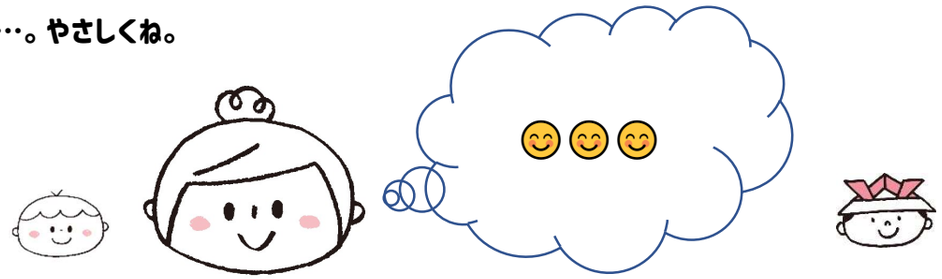
バアバちゃんの子育て考 NO.2

吉田緑こども園
理事長　長谷川智子

さわやかな５月の風に乗って「センセ、オハヨウゴザイマス」の挨拶が、あちこちでこだましています。

泣き声も随分減って来ました。

感情ってどこから？大人なら「私の感情は、私の考え方から」といえるのです。怒りや悲しみを感じたときは自分の頭の上に**ふき出しをつくり、心の声をその中に書き出すと、治まってくるかも…。やさしくね。**



ところが子どもはそれができません。だからやさしく声をかけたり、抱きしめて「わかったよ。よく我慢したね」と励ます事が大事です。

今わたしはみんなに（勿論子ども達からも）愛をもらって人生の終末を明るく迎えられています。

それでは、今からの私に何ができる？どうありたいのかを問いかけてみると「あたたかい太陽のような存在」「やさしい眼差しで見守る」を心に刻み忘れかけたら復唱することにしています。子ども達への恩返しです。

さて、新しい学期を迎える子どもは緊張しています。できなくていいんです。その子なりのものが発揮できる雰囲気を増やしましょう。

一番大事な朝ごはんを食べて来るようにしましょう。ごはんとみそ汁でいいのです。

私の小さい時、朝、バアちゃんのコトコトコトまな板の音で目が覚めました。あくびをして手を伸ばしていると「はよ、顔洗って！！」と声がかかります。その頃になるとプーンとみそ汁の匂い。

嬉しい一日の始まりです。

「いいよ」も「いや」も子どもの大切な気持ち

ほけんニュースより

幼児期の子どもが、おもちゃを貸してと言われて「いや」と断ることがあります。子どもは、いつも遊んでいるおもちゃを自分のものと感じるので、これは当たり前のことです。無理に「いいよって言おうね」などというと、子どもは気持ちを認めてもらえなかったと感じることがあります。

まずは「まだ使っているんだね」などと受け入れる言葉をかけ、その後「仲良く遊ぶにはどうしたらいい？」と話してみましょう。

子どもは気持ちを受け入れてもらう経験を通じて、自分と他社の気持ちの違いに気づき、少しずつ歩み寄れるようになります。

子どもに寄り添い、気持ちを動かす言葉かけ

転んで痛いと泣いている時

痛くない痛くない！

痛いのに！悲しい･･･

受け入れる言葉に

痛かったね。大丈夫？

うん･･････　ほっ

床にごみをぽい捨てした時

どこに捨てたの！？

床に捨てたんだよ

具体的に指示する言葉に

ごみはごみ箱に捨ててね

うん！ごみ箱に捨てる